



それぞれの思いと

共通の願い

例年よりも早い梅雨明け宣言と同時に、うだるような暑さがやって来た。この異常とも思える暑さの中、僕は公園のベンチに腰かけている。なぜそんなことをしているかというと、今回の参院選大分選挙区の候補者全員の演説を、直接聞いてみよう

と思ったからだ。

選挙に無関心な時代と言われている割には、それぞれの候補者の話に足を止める人の多さに驚きつつ、僕も耳を傾けた。ほぼ全ての候補者の演説を聴き終えて改めて感じたのは、多種多様な問題意識と意見に対して賛同する人、反対する人の思いが、そこに確実に存在していることだ。

演説会場の拍手や相づちだけではなく、やじの存在も現状をリアルにしている。集まった人々は演説を聴いて、どのように感じたのだろうか。十人十色の人生と環境の中で生活している

からこそその多様な課題や意見がある。思いも強く、さまざまだろう。などと考えていると、本当に勉強になった。聴衆はそれぞれの思いを、一票に託すのだろう。

この原稿が皆さんの目に触れる頃、結果は出ているだろう。結果がどうであれ、一つだけ強く思うことがある。選挙で選ばれた人は、全ての人の代表者なのだ。自分に投票した人のことだけではなく、異なる意見の候補者に投票した人も、投票しなかった人も含めて全ての人のことを考えなければならない。選挙とは異なる考え方の勝ち負け

を決めるのではなく、そういうことができる人を選ぶ機会だと僕は思っている。

谷川俊太郎の作品の中に、僕の好きな言葉がある。「ひとつのおとに、ひとつのこえに、みみをすますことが、もうひとつのおとに、もうひとつのこえに、みみをふさぐことに、ならないように」

社会が「共に生きる」ことを望んでいる。そんな時代の新しい政治家に期待したい。

たかみ・だいすけ 日本文理大 人間力育成センター長。専門は初年次教育、ユースワーク、ボランティア論。別府市在住。41歳。